

患者安全から医療安全へ

日本医療安全学会理事長 酒井亮二

米国では患者安全(Patient Safety)を国家のスローガンとして掲げて久しい。他方、日本の医療現場の声では医療安全(Medical Safety)という言葉が過去 20 年間使用されている。

本学会理事会でもどちらの言葉が妥当かという検討を昨年に行いました。その結果、患者安全第一は当然である。しかし、医療従事者の事故も守る必要があるという院長クラスの声も存在しました。

医療行為に伴う医療者の事故としては、以下のようなサンプルが報告されています。

針刺し事故

抗がん剤の被ばく

電離放射線の被ばく

院内感染

クレマー患者からの被害

医療事故に関与した医療者の保護 (自殺したという例も少なからず報告されています)

等々

以上から、患者安全と医療従事者安全の双方が医療現場では必要であり、そのために患者安全という米国の主張より、医療安全という日本の主張が妥当である、という結論に至っておるところです。